

2人とともに

(1) 気持ちのよいふるまいを

P.54～63

2-(1)

気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである、挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けることと関連の深い項目である。

この項目では、具体的な挨拶や言葉遣い、みんなが気持ちよく暮らすために大切な礼儀や作法がイラストで描かれ、これらを見ながら、自分の体験やそのときの気持ちを振り返ることができるようになっている。

また、五十六・五十七ページの書き込み欄は、児童が自分自身で期間や挨拶の種類を設定し、継続的に挨拶に取り組むことができるよう工夫されている。家の人からのコメント欄も多くあり、家庭と連携して気持ちのよい振る舞いをしようとする意欲を高めることができるようになっている。

2 活用のポイント

低学年の段階では、特に、気持ちのよい挨拶や言葉遣い、動作などの具体的な指導を通して明るく接する態度を育てていくことが大切である。

身近な人と接する中で、挨拶や言葉遣いなどについて、気持ちよく感じる体験を積み重ねながら、その体験を振り返って考えさせ、気持ちのよい振る舞いを、しっかりと身に付けられるようにすることが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

日常生活において、様々な場面で行っている挨拶を想起する際に、五十四・五十五ページを活用することができる。また、挨拶に関する多様な経験を振り返る際にも五十六または五十七ページの書き込み欄を活用することができる。

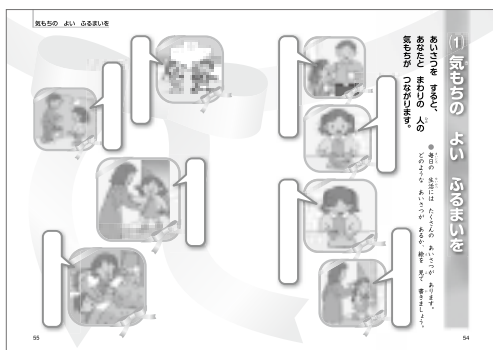
事例

① 五十四・五十五ページを見て、日常生活で行っている様々な挨拶を想起する。

② 読み物資料「たびに出て」を読んで話し合う。

③ 挨拶ができたとき、挨拶をされたときの気持ちを振り返って話し合う。

④ 五十六または五十七ページに、できるようにしたい挨拶を書いて発表する。



P.54～55

特別活動（学級活動）

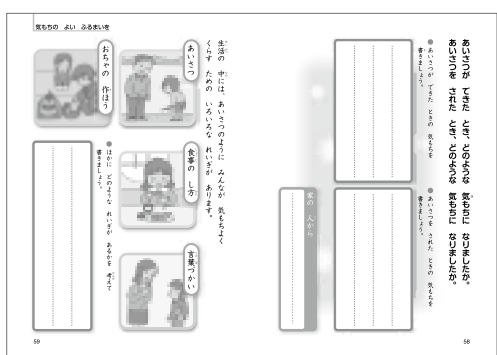
学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「基本的な生活習慣の形成」の指導に当たって、児童が多様な挨拶を想起し、そのときの気持ちを振り返ることができるようにする。また、挨拶について、特に努力したいことを自分で決め、実行してみること、身近な人に礼儀正しく、明るく接しようとする態度を育てていくことができる。

事例

① 五十四・五十五ページのイラストを見て、日常生活の中で、たくさんの挨拶をしていることについて話し合う。

② 五十九ページのイラストを見て、みんなが気持ちよく生活するためにある様々な礼儀作法について想起し、そのときの気持ちを振り返って話し合う。

③ 「挨拶月間」のときなどの目標を各自で設定し、五十六または五十七ページでチェックしていくようにする。



P.58～59

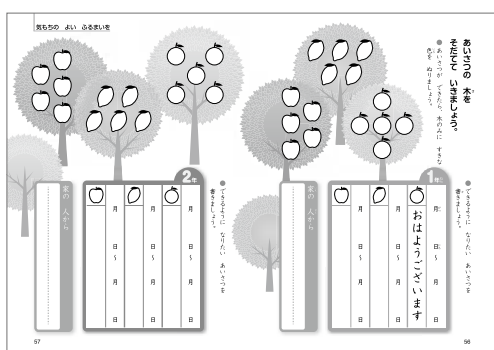
家庭との連携

五十六または五十七ページに、できるようにしたい挨拶を書き込み、期間を設定して継続的に取り組むことで、気持ちのよい挨拶をすると自分も相手も気持ちよくなるという経験を積み重ねることができる。

家庭においては、このページを見ながら、挨拶をしてどのようなことを思ったのかなど、会話の機会をもつことができる。そして、その取組や考えに対して、「家の人から」の欄に、児童の様子を励ましたり、認めたりする言葉をもらうことによって、気持ちのよい振る舞いをしようとする意欲の向上に結び付けていくようにしたい。

日常生活

気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などは、日常生活で継続的に実践する中で定着していくものである。期間を決めて、自己評価をすることで、身近な人と明るく接することができるようにしたい。



P.56～57

1 資料の特性

「あいさつじま」のさるたちは、いつもみんな元気に挨拶をする。一方で、挨拶を面倒に思うけいたは「あいさつじま」から旅立つことにする。着いたのは「あいさつのないしま」。とても静かな様子を、すっかり気に入ったけいただったが、水飲み場を尋ねたときのさるたちの対応に戸惑う。その夜、けいたは、木の上で「あいさつじま」のことを思い出して考える。次の日から、けいたは、みんなに挨拶をするようになり、「あいさつのないしま」に、段々と明るく元気な挨拶があふれるようになる。

挨拶や言葉遣い、動作などに心掛けて、身近な人と明るく接することが、気持ちよく生活することにつながる。していることに気付いたけいたの気持ちを想像し、礼儀について考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、けいたを自分自身に重ね合わせて、その気持ちや思いを考えさせるようにしたい。挨拶が大切だと分かっているけれど、面倒だという気持ちと、みんなが気持ちよく生活するために明るく接しようとする気持ちの両方を考えさせたい。

また、挨拶が中心になっている資料であるため、年間

◎葛藤する二つの思いを考える

- (○) 挨拶の大切さに気付いている思い
 - (●) 挨拶なんて面倒だという思い
- 両方の思いを考えさせるようにして、内面の葛藤を捉えさせる。

事例②

挨拶の大切さに気付いたけいたの思いを考える展開

【主な学習】

- ① 「あいさつじま」から旅に出たけいたはどのような気持ちだったか。
 - ・ もう挨拶しなくていいんだ。楽だな。
- ② 「あいさつのないしま」では、どのようなことが起こると思うか。
 - ・ あまり話さなくてよいので面倒が減る。
 - ・ 挨拶しないので、なかなか仲よくなれない。
 - ・ みんなの気持ちが暗くなる。
- ③ 自分から「あいさつのないしま」に行つたけいただったのに、どのような思いで、次の日も次の日も挨拶を続けていたのか。
 - ・ 挨拶なんて面倒だと思っていたけれど、挨拶をしないと気持ちが暗くなってしまうことが分かった。

を通して礼儀、言葉遣い、動作などに心掛けていくことができるよう、適切な時期に指導を行うようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

自分も相手も気持ちよく過ごせるよう、挨拶や言葉遣いの大切さを理解し、明るく接しようとする態度を育てる。

事例①

けいたの葛藤する思いを考える展開

【主な学習】

- ① けいたは、どのような考えで挨拶をしなかったのか。
 - ・ 挨拶なんてしなくてもいいじゃないか。
 - ・ 挨拶なんて面倒だし、嫌いだ。必要ないよ。
- ② 木の上で「あいさつじま」のことをじっと考えるけいたは、どのような思いだったか。（葛藤する二つの思いを考える。）
 - ・ (○) 挨拶がないと何だか寂しいな。
 - ・ (○) 「あいさつじま」のみんなは、明るかったな。
 - ・ (●) これでいい。挨拶は面倒だったじゃないか。
 - ・ (●) みんなも挨拶をしていないしな。
- ③ 「あいさつのないしま」に元気な挨拶があふれ出す様子を見て、けいたはどのようなことを思ったか。
 - ・ 挨拶は自分も、みんなも気持ちよくさせるのだな。
 - ・ 思い切って挨拶をしてよかったな。
- ④ 挨拶をしたとき、また、挨拶をされたとき、どのような気持ちになったか。

二の視点 重点ページ

せかいの「うんち」は「ありがた」

P.64～65

1 このページの特徴

道徳の指導内容の重点の一つである挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けることに関して、世界の国々の「こんにちは」や「ありがたう」を紹介したページである。

各国の挨拶の言葉を知り、挨拶に込められた気持ちを考え、気持ちのよい挨拶を実践しようとする意欲を高めることができる。

2 活用事例

■日常生活

六十四・六十五ページを用いて、児童の挨拶に対する実践意欲を高める。その後、教室掲示として活用することで、日常生活における継続的な意識付けを図ることができる。

2 人とともに (2) あたたかい心で親切に

P.66～73

2-(2)

幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。

1 この内容項目のページの特徴

他者との豊かな関わり合いをもつための基本的姿勢である思いやりの心や親切な心を実践に生かしていくことができるように、書き込みや自己評価ができる欄を設けている。記入内容については、この項目の低学年の内容を考慮し、幼い人や高齢者などへの思いやりや親切について、重点的に考えられるよう、六十六・六十七ページに書き込み欄が設けられている。また、「家の人から」の書き込み欄も設けられており、家庭と連携しながら他者への思いやりの心について実践意欲を高められるようにしている。

さらに、助け合って生きることのすばらしさについて考えられるような読み物コラムを掲載し、思いやりの心や温かい心について考えを深められるようになっている。

2 活用のポイント

自己中心的な面がまだ残っている低学年の児童にとっては、他者との関わりの中で実感を伴いながら、思いやりの心や親切な心を身に付けていくことが大切である。したがって、この項目のページでも示されているように、幼い人や高齢者に目を向けさせること、多様な触れ合いの場を生かすことで、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにしていきたい。

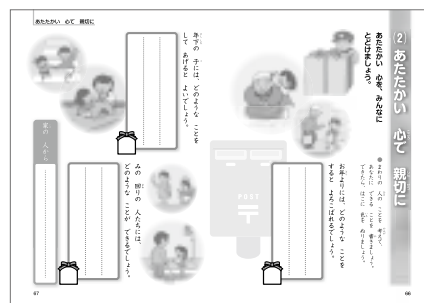
3 活用場面例

道徳の時間

六十六・六十七ページは、温かい心や親切にすることについて、話し合ったことを基に、自分ができることを考える際の資料として活用できる。また、道徳の時間に書いた自分ができることについて、他の教育活動や家庭との連携によって実践に生かすことができる。

事例

- ① 六十六・六十七ページのイラストを見て、温かい心をみんなに届けるとは、どのようなことなのか話し合う。
- ② 読み物資料「はしの上的のおかみ」を読んで話し合う。
- ③ 六十六・六十七ページに、周りの人のことを考え、自分ができることを書き込む。
- ④ 読み物コラム「たすけ合って生きる」を読む。



P.66～67

生活科

生活科の内容「(3) 地域と生活」や「(8) 生活や出来事の流れ」に関する指導に当たって、六十六・六十七ページを活用することができる。自分が暮らす地域の施設や住んでいる人々との関わりを深める学習を通して、地域の人々に対して、思いやりの心を持ち、自分たちの町の人々との交流を深めるようにする。学習のまとめにおいては、読み物コラム「たすけ合って生きる」を活用することもできる。

事例

- ① 六十六・六十七ページのイラストを見て、地域に住んでいる人と豊かに関わり合うためにどのようなことが大切なのか話し合う。
- ② 友達と話し合いながら「町探検」の計画を立てるとともに、地域の人に対して自分ができることを記入する。
- ③ 実際の「町探検」において、地域の保育所や幼稚園、高齢者のための施設を訪問する際、事前に記入しておいた内容を実践し、地域の人々との交流を深める。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、身近な人と温かい人間関係を築いていこうとする態度を養う際に、六十六・六十七ページを活用することができる。

事例

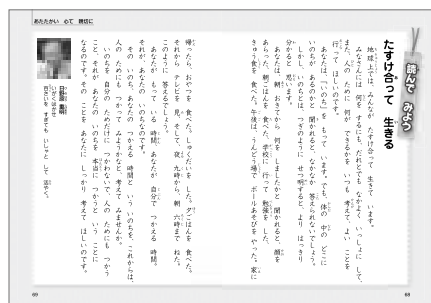
- ① 六十六・六十七ページを見て、身の回りの人に親切にできた経験を話し合う。
- ② お年寄りや年下の子には、どのようなことをしてあげるとよいか、実践方法も含めて話し合う。
- ③ 身の回りの人たちに親切にしようと思うことや実践方法を決めて発表する。

家庭との連携

道徳の時間に書き込んだ六十六・六十七ページの周りの人に温かい心を届けるために自分がやってみたいことについて、家庭と連携し共通理解を図って、児童の実践意欲を高めるようにする。

事例

- ① 周りの人に、温かい心を届けることができたなら、箱に好きな色を塗る。また、実践後の感想を別のワークシートなどに書く。
- ② 家の人にできたことや思いを伝え、「家の人から」の欄に一言書いてもらうようにする。
- ③ 読み物コラム「たすけ合って生きる」を活用して、助け合って生きることについて家の人と一緒に読んだり、話し合ったりする。



P.68～69

はじの上のおおかみ

P.70～73
2-(2)

1 資料の特性

おおかみは、ある朝、山の中にある長くて細い一本橋の真ん中でうさぎに出会った。おおかみは、うさぎを追い返し、大いばりで橋を渡ったことが面白くなり、それから用もないのに小さな動物たちを追い返すようになったところが自分よりも体が大きくまに出会ったおおかみは、自分からこそと戻ろうとする。しかし、くまは優しくおおかみを渡らせてくれる。おおかみは、自分に優しく接してくれたくまの姿から、温かく接することの大切さに気付く、自分がこれまで意地悪をした動物に優しく接するようになる。

おおかみの思いを想像させ、優しく接したときの気持ちよさを感じ取らせるとともに、くまの後ろ姿から気付いたことについて考えさせることのできる資料である。

2 指導上の留意点

低学年の児童は、意地悪がつい面白くなったおおかみの思いを想像できるであろう。そのことを土台としながら、優しくくまに接したときのおおかみの気持ちを考えてるようにしたい。そして、親切な行いをするものの喜びを感じ取らせることで、温かい心で接することについて考えを深めさせたい。

- ・うさぎさんが喜んでくれて僕もうれしいな。
- ・相手に優しくすると、自分もいい気持ちになるんだ。
- ・今までみんなごめんね。
- ⑤ おおかみが言った最初と最後の場面の「えへん、へん。」の言葉に込められた気持ちは、どのようなものか。
- ・最初の「えへん、へん。」は、みんなに意地悪をして威張っている。
- ・最後はみんな喜んでくれて自分もうれしくなったから、やってよかったなあという「えへん、へん。」。

◎ 役割演技の活用

おおかみが、くまに橋を渡らせてもらった場面で役割演技を取り入れ、親切にされたときのうれしさについて考えさせることもできる。教師がくまの役になり、児童がおおかみの役になって、橋を渡らせてもらい、くまの後ろ姿を見ているときの気持ちを実感として捉えさせ、そのときの気持ちを表現させるようにしたい。

◎ 動作化の活用

「えへん、へん。」と威張って一本橋を渡っているときのおおかみと、うさぎを抱き上げて渡らせてあげて「えへん、へん。」と言っているおおかみを動作化することもできる。動作化によって、おおかみへの共感を深めさせた上で、最初と最後の場面の「えへん、へん。」の言葉に込められた気持ちの違いを考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。

事例①

おおかみの立場で親切について考える展開

【主な学習】

- ① うさぎやきつねを追い返して意地悪をしているおおかみは、どのような気持ちか。
- ・ えへん、へん。王様みたいで気持ちがいいぞ。
- ・ 通せんぼは楽しいな。
- ・ 僕が一番強くて、偉いぞ。
- ② くまと出会ったおおかみは、どのようなことを思っていたのか。
- ・ くまさんは強そうだな。追い返される前に自分から戻ろう。
- ・ あんなに大きくくまに、意地悪されたら大変だぞ。
- ③ おおかみは、くまの後ろ姿を、どのような気持ちでいつまでも見ていたのか。
- ・ くまさんはあんなに強そうで大きいのに、なんて優しいのだろう。
- ・ くまさんに優しくしてもらって、とてもうれしかったな。僕もくまさんのまねをして、みんなに優しくしていきたいな。
- ④ うさぎを抱き上げ、親切な行いをしたおおかみは、どのようなことを思ったのか。

事例②

うさぎの立場で親切について考える展開

【主な学習】

- ① おおかみに意地悪をされているうさぎは、どのようなことを思っているのか。
- ・ 面白がつて通せんぼをするのは、いけないよ。やめてほしいな。
- ・ 意地悪をするおおかみさんは嫌だな。
- ② うさぎは、おおかみに親切にされてどのようなことを思ったのか。
- ・ 親切なおおかみさんになってよかったな。
- ・ 親切にされるとうれしいな。
- ③ 優しくなったおおかみに手紙を書く。
- ・ おおかみさんに優しくされて、うさぎさんはとてもうれしかったと思うよ。優しくできるおおかみさんは素敵だね。
- ・ おおかみさん、意地悪をしているときと優しくしているときでは、気持ちが違うことがありませんか。自分が優しくされたときの気持ちを忘れないでね。
- ④ 今まで自分が親切にしてきたことやそのときの気持ちについて振り返る。
- ・ 電車でおばさんに席を譲った。にっこり笑ってくれたので、席を譲ってよかったなと思った。
- ・ 年下の子と遊んだとき、滑り台やぶらんこの順番を譲ってあげた。年下の子が喜んでくれて、自分もうれしかった。

2 人とともに

(3) ともだちとなかよく

P.74～81

2-(3)

友達と仲よくし、助け合う。

1 この内容項目のページの特徴

低学年の段階においては、幼児期の自己中心性がまだ残っていることが多く見られる。そのため、友達の気持ちを考えない言動をしてしまい、トラブルになることもある。しかし、友達と仲よく遊んだり、助け合ったりする経験を積み重ねていくことで、少しずつ友達の気持ちを考えることができるようになってくる。七十四ページの写真や、七十五ページのフリードリヒ・フォン・シラーの言葉、七十六・七十七ページの書き込み欄を活用することで、友達と仲よくしようとする意欲を高めることができる。

2 活用のポイント

友達と仲よくし、助け合っているという意欲を高めるためには、これまでの自分の経験を振り返って考えることが重要である。特に、友達と一緒に楽しかった場面や友達に助けてもらった場面などについて振り返って考えさせることで、もっと友達と仲よくしたい、友達が困っていたら今度は自分が助けてあげたいなど、友達と仲よくし、助け合おうとする態度を育てていくようにしたい。

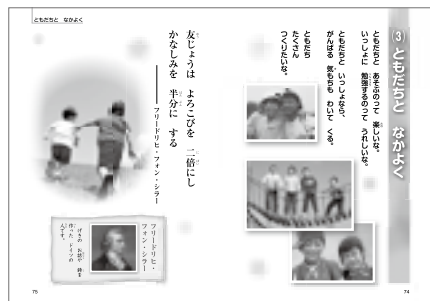
3 活用場面例

道徳の時間

七十四から七十七ページは、友達と一緒に楽しかったときのことを振り返って考える際に活用することができる。文章を読んだり、写真を見たり、偉人の言葉の意味を考えたりしながら、自分の経験を思い起こし、友達と一緒にいることの楽しさを感じることができる。書き込み欄に記入することも、自分の経験を振り返る上で有効である。

事例

- ① 普段、友達とどのようなことをして遊んでいるか、振り返って考える。
- ② 読み物資料「およねいりすさん」を読んで話し合う。
- ③ 七十六または七十七ページの書き込み欄に、友達と仲よくして楽しかったことやうれしかったことを書き込む。
- ④ 七十四・七十五ページを読む。



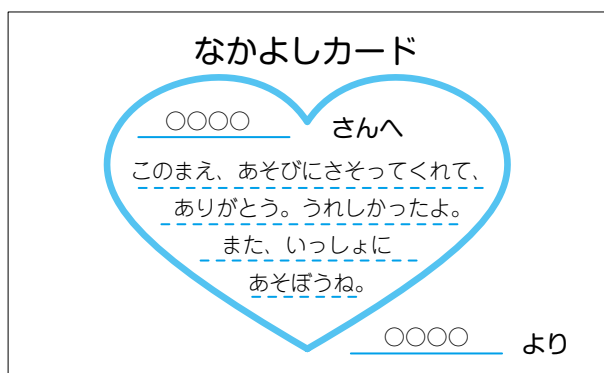
P.74～75

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、友達と仲よくし、望ましい人間関係を進んで築いていくとする態度を養う際に、七十四から七十五ページを活用できる。

事例

- ① 七十四・七十五ページの写真を見たり、文章を読んだりして、友達と一緒に楽しかった経験について話し合う。
- ② 七十六または七十七ページの書き込み欄に、友達と仲よくして楽しかったことやうれしかったことを絵や文章で書き込む。
- ③ 友達に「なかよしカード」を書いて、発表し合う。
- ④ みんなと仲よくするために、自分はどういう方法で実践したいのかを決めて発表する。



【なかよしカード(例)】

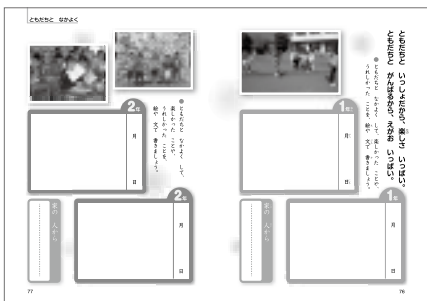
家庭との連携

七十六または七十七ページの「家の人から」の欄に言葉を書いてもらい、家庭と連携し共通理解を図って、児童の実践意欲を高めることができる。

また、学級通信や保護者会等を通して、友達との過ごし方などについて家庭で話し合ってもらいように依頼したり、家の人が子供の頃の友達との思い出などを話してもらったりするなど、家庭の協力を得て、友達との関わりについて考えを深めさせるようにする。

日常生活

七十六または七十七ページの書き込み欄のようなワークシートをたくさん用意しておき、友達と仲よくして楽しかったことやうれしかったことを、日常的に書き込むことができるようにしておく。書いたものは、教室に掲示したり、定期的に紹介したりするようにして、友達と仲よくしたいという意欲を高めるようにする。



P.76～77

読み物資料

およげないりすさん

P.78～81
2-(3)

1 資料の特性

かめ、あひる、白鳥が池の中の島へ行こうとした際に、一緒に連れて行ってほしいと言うりすに、泳げないから駄目だと断ってしまう。りすがいいまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せて、みんなで島に向かう。友達と仲よく遊ぶことのよさや、友達のことを考えて助け合うことの大切さについて考えることのできる資料である。

仲間外れの状況は、低学年における友達とのトラブルとして見られる状況であり、こうした場面について考えることを通して、友達と仲よく、助け合うことについて考えを深めることができる。いじめの問題に関わっての活用も考えられる。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、かめ、あひる、白鳥たちの気持ちを考えると同時に、一人ぼっちになってしまうりすの気持ちについても考えさせるようにしたい。そうすることで、自分のことだけではなく、友達の気持ちも考え、仲よくすることが、望ましい友達関係を築く上で大切であるということに気付かせることができる。

④このような出来事するとき、自分がかめの側の立場だったらどのようなことを考えるか。

◎ 役割演技の活用

りすを置いて遊びに行ってしまうかめたちと、残されて一人ぼっちになってしまいうりすの役になって役割演技を行うこともできる。

また、役割を交代して演じ、それぞれの立場の気持ちを考えさせるようにすることも効果的である。

事例②

りす（一人ぼっちにされてしまう側）の立場で友達と仲よくすることについて考える展開

【主な学習】

- ① かめたちが、池の中の島へ行行って、遊ぶ相談をしているのを聞いたとき、りすはどのような気持ちだったか。
 - ・ 楽しそうだな。
 - ・ 僕は泳げないけれど、みんなと一緒にいきたいな。
- ② みんなから「りすさんは、およげないからだめ。」と断られてしまったとき、りすはどのような気持ちだったか。
 - ・ 僕もみんなと一緒にいきたいのにひどいなあ。
 - ・ 僕は泳げないから仕方ないのかな。でもみんなと遊びたいな。

3 展開例

【ねらい】

友達と仲よくし、互いに助け合っていこうとする態度を育てる。

事例①

かめたち（友達を一人ぼっちにしてしまう側）の立場で友達と仲よくすることについて考える展開

【主な学習】

- ① りすに「ぼくもいっしょにつれて行ってね。」と言われたとき、かめたちはどのようなことを考えたか。
 - ・ 一緒に遊びたいな。でもりすさんは泳げないから一緒にいけない。
 - ・ 僕は泳げるけれど、りすさんは泳げないぞ。意地悪してやれ。
 - ・ かわいそうだけど断ろう。
- ② かめ、あひる、白鳥だけで島で遊んでいるとき、かめたちはどのような気持ちだったか。
 - ・ りすさんがいないと楽しくないな。でも仕方ないよ。一緒に来られないのだから。
 - ・ りすさんも寂しいだろうな。
 - ・ やっぱりりすさんと一緒に遊びたいな。
- ③ 次の日、りすを背中に乗せて、みんなが島に向かっていくとき、かめたちはどのような気持ちだったか。
 - ・ りすさん、ごめんね。
 - ・ 今度は一緒にだからきつと楽しいぞ。
 - ・ やっぱりみんな一緒にだと楽しいな。

③ かめたちが謝りにきて、一緒に島へ行くことになったとき、りすはどのような気持ちだったか。

- ・ よかった。これでみんなと遊べるぞ。
- ・ 謝ってくれてよかった。みんなと一緒に楽しいな。
- ・ 仲よくした方がやっぱり楽しいな。

④ 友達といて楽しかったことやうれしかったことはあるか。

- ・ 一人でいるときに友達が「遊ぼう」と誘ってくれて、うれしかった。
- ・ みんなと一緒にドッジボールをしているときがとても楽しい。

◎ 「いじめ」の問題等への対応として

自己中心性がまだ多く残る低学年の時期は、自分の思いが先に立ち、自分にとって都合のよいことを優先してしまうことがある。そのため、友達が嫌がることを何気なくしてしまったり、仲間外れにしてしまったりすることもある。

本資料では、仲間外れにする側とされる側の双方の気持ちを考えることができる。普段の生活の中で、トラブルがあったときなどに、友達の気持ちを考える視点をもつことができるよう、道徳の時間の学習を生かして、学校生活全体で指導していくようにしたい。

